

# 社会科

## I. 研究の経緯

### 1. 基本的な考え方

### 2. 社会科授業を通して分かる子どもの課題

表 1. 社会科授業に関する意識調査とその結果



#### 【社会科における子どもの課題】

社会科授業に関して好意的であるものの、その授業観や社会認識に関する意識が学年が上がるにつれて変容し、社会科に対する関心だけでなく自信も低下している子どもが増えている点。



【東雲社会科の共通確認事項（子ども像を育む上で学びのつながる授業を行うための手立て）】

内容：①子どもが社会を知り分かる授業づくり（「社会認識」を育む授業の追究）

方法：②子どもが学びあい、探究できる授業づくり

（「教師が教える授業」から「子どもが学ぶ授業」への転換）

表3. 東雲社会科の授業づくりにおける共通のポイント

手立ての内容方法 段階	内容：①子どもが社会を知り分かる 授業にするには	方法：②子どもが学び合い探究できる 授業にするには
《授業構成段階》	○子どもの知的好奇心をくすぐる課題 が生まれる学習材の設定	○子どもが学び合いを通して、課題追 究できるような単元構成
《授業実践段階》	○子どもの探究が可能となるような教師の揺さぶり発問・資料の準備・板書構成 ○社会を知り分かり学び合えるための、課題設定後の予想と授業・単元終末での 振り返りの場を設定	

Stage

表4. 子どもの知的好奇心、学習意欲・態度を育むための段階表

社会を学ぶ知的 好奇心	stage	クラスという社会で 学び追究する意欲・ 態度

## Ⅱ. 本年度の研究

### 1. 本年度の研究目的

社会科授業構成・授業実践における共通の手立てを明確にする

教師の個性や授業観を生かしながら、子どもの知的好奇心をくすぐる学習材や学習課題を設定し、子どもの学び合いや探究を通して「グローバル化」する社会の様子が知り分かる授業開発・実践

### 2. 社会科授業構成・授業実践における共通確認 学習材の選択

(2) 学習課題の設定

(3) 授業構成

(4) 授業実践

(5) 授業者の個性（授業観や授業理論など）

### 3 社会科7年間の学びのつながりで育む子ども像にむけた授業仮説

**【研究仮説】**

「グローバル化」という社会変化に着目しながら、東雲の社会科授業づくりの手立てを踏まえ、各段階で授業構成し実践することができたならば、子どもは「社会を学ぶ知的好奇心」、「クラスという社会で学び追究する意欲・態度」を持ち続け高め合うことで、東雲社会科における子どもの課題を克服できるであろう。

-----

-----

-----

, 2002